

パモジャ PAMOJA



第34号

青年海外協力隊 巢守 世那
2026年 6月29日発行

あっという間の1学期

Hamjambo?

1月から始まった1学期が終わりました。主に1年生を中心に授業に入っていたので、1年生の子どもたちがノートをきれいに書けるようになっていたり、10のまとまりを意識できるようになったり、足し算や引き算を指を使わずにできる子がでてきたりとたくさんの成長を感じることができました。

タンザニアの小学校は宿題がありません。教科書やドリルもないので、学んだことを繰り返し練習する時間が不足していたり、100人以上を先生が1人で見るのでどうしても取り残されてしまう子がいたりします。どうしたら、誰一人として取り残すことなく教えることができるか、わかりやすく伝えるのにはどんな教材を作りどんな問いかけをしようかととても悩みました。また、1学期が終わると1か月の休み期間になるので、(もちろん宿題はありません)ほとんどの子どもたちが学んだことを忘れてしまっていると現地の先生たちも嘆いていました。宿題は嫌だなと思うことが多かった学生時代でしたが、宿題のおかげで繰り返し学ぶことができ計算や漢字などできるようになっていることがあったのだと気づきました。そこで、担当の算数において、丸付けでノートを回収した後、一人一人にその日学んだ内容の問題をノートに書いて宿題として出すことを続けました。すると、「もっと宿題出して〜。」という子や、できたと得意気にノートを見せに来る子など意欲的な姿が見られて嬉しくなりました。



Somo la ziada(ソモ ラ ジアダ):補習

もっと学びたいという子たちと授業後残って一緒に復習しています。お互いに問題を出し合いっこするのはまっています。



休み時間には、2年生がバク転や側転、逆立ちを見せに来てくれます。日本のようにマットもないので、頭をぶつけないかひやひやしますが、みんな砂の上で、はだしてバク転していてびっくりします。たくましい!

